

発行所

社団法人 埼玉県電業協会  
〒336-0031 さいたま市南区  
鹿手袋4-1-7(産業達会館内4F)  
TEL 048(864)0385  
http://www.saidenkyo.jp/  
kyokai@saidenkyo.jp

# 彩の耀

さいのかがやき

第155号

平成21年1月27日発行

発行人 佐野良雄  
編集人 広報委員会  
(委員長 熊田弘信)  
編集 日本工業経済新聞社  
(埼玉建設新聞)



## 未来へ羽ばたく

～埼玉から日本の未来を創る源動力、発信～

埼玉県知事 上田 清司

からお喜びを申し上げます。

今年はいよいよこれまで築いた基礎の上に立って、将来の埼玉を見据えた県政運営に取り組んでいく決意です。

私が知事就任以来取り組んできた安心・安全な埼玉づくりの成果は確実に上がっています。民間パトロールなど地域の皆様のご協力により、犯罪発生件数は減少。交通事故死者数も大幅に減少しました。

産業振興では、企業誘致、制度融資改革、創業・ベンチャー支援などに重点的に取り組んできました。その結果、平成16年から18年の県内の事業所数が増加数、増加率とも全国2位となりました。現在の厳しい経済環境にあっても埼玉県経済は、粘り強さを見せています。

さらに昨年は、女性のチャレンジを支援するため、女性キャリアセンターをオープンしました。再び社会で働きたいなどの意欲のある女性を多角的にサポートしています。

また、新たに「彩の国みどりの基金」を設けるなど、みどりの再生への取組も始めました。頑張る「埼玉」のエネルギーは、県内のスポーツにもパワーを与えたようです。昨年は埼玉の名前を冠して再出発した埼玉西武ライオンズが日本一を獲得。さらにアジアシリーズチャンピオンにも輝きました。

今年も埼玉県はエネルギー全開です。災害対策や福祉、医療など暮らしの安心・安全の確保に着手に取り組んでまいります。その上で、「環境」や「子育て」など埼玉の未来を見据えた取組を進めてまいります。

人類存続の危機にもなりかねない地球温暖化は、私たちが将来のために「今」

取り組まねばならない課題であり、責任です。私はそういう思いから、ライフスタイルの転換について一石を投じさせていただきました。今年、快晴日数日本一の利点を生かした太陽光発電の普及や多様な機能を持つ緑地の拡大などに集中的に取り組んでまいります。

また、水辺空間の創造や川の再生にも取り組み、目に見えるような形でゆとりと賑わいに満ちた空間を創造してまいります。

「子どもは社会の宝」といわれます。子どもの健やかな成長を助けることは、自らの社会の未来を築いていくことに他なりません。しかし、核家族化や都市化の進展などにより、子どもたちを育てる社会の力が弱まっています。学校・家庭・地域が連携し、地域ぐるみでたくましく心豊かな子どもを育てる仕組みづくりなどを推進してまいります。

これらの取組のキーワードは県民参加とムーブメントです。治安の回復に大きな力となった民間パトロールはまさにこの県民参加の成功例です。714万県民の皆様の力は計り知れません。私は、その力が一つにまとまり大きなムーブメントになった時、埼玉から日本を変える大きな波動が起こると考えています。

今、風は埼玉へと吹いています。今年、川越や長寿など、埼玉を舞台にした朝のNHK連続テレビ小説「つばさ」が放映されます。テレビを通して全国の人々が埼玉に注目する絶好の機会です。私も、埼玉での成功例を、日本の未来を創るエネルギーの源「源動力」として、全国に発信していく決意です。

私たちに逆風さえも未来への大きな糧にしていく力があるはず。その力を凝縮し、「ゆとりとチャンスにあふれた埼玉県」を目指し、力強く羽ばたいていきたいと思います。

## 技術と英知を出し、礎石を投じる年 技術力・発想力を高め、分野拡大を

社団法人 埼玉県電業協会会長 佐野 良雄



新しい年を迎え謹んで新春のごあいさつを申し上げます。

昨年8月、中国が総力を挙げて開催した4年に1度の祭典「北京オリンピック」が遠い昔の出来事のように感じられるように、秋風とともに強烈な衝撃が襲ってまいりました。ここ何年か懸念されていたアメリカ金融危機に端を発し、世界中に100年に1度とも言える大きな経済環境の変動が起こり、株価の大幅下落、為替の乱高下などが続き、それぞれの国の事情も加味されて、実体経済に深刻な負のスパイラルの始まりとも思える事態が顕著化しました。

我々業界も従来からの厳しい環境から抜け出せずにいる中、相次ぐ大手不動産業者やゼネコンなどの破たん、工場などの設備投資縮小や人員削減などが強いられている現状から、さらなる経営環境の悪化が憂慮される所でありました。

官公庁発注工事に目を向けて見ても「公共工事契約適正化促進法」、「官製談合防止法」、「公共工事事業確保促進法」の施行により、一般競争入札が主流となり価格競争が一段と激しくなっており、適正な利潤を上げることが困難となっております。加えて公共工事が大幅に減少している事もあり、各企業とも自社の運営に将来を見出せない状況にあると思います。

協会として今年は、我々業界を取りまく環境の中で如何に会員企業がこの難局を切り開いてゆけるか、また大きな岐路に立たされている状況で各会員が持てる技術と英知と経験を出し合って先に見える業界として礎石を投じる年になると思います。

昨年7月に開催された洞窟湖サミットで、地球温暖化問題が大きくとりあげられました。また京都議定書の実績がいよいよ問われる時となりました。本年度は国、地方をあげて温室効果ガスの削減に向けて、諸制度が具体化される年でもあります。我々はいくまでも社会資本整備の構築に携わってまいりましたが、今後急速に導入されるであろう環境・省エネ機器について、その用途開発も含め貢献出来る企業集団としてそれぞれの技術力・発想力を高め、積極的に行動し仕事分野の拡大に繋げてゆけるよう活動していきたいと思っております。

TV放送の地上デジタル化もあと2年余りと迫って参りました。公共、民間施設で電波障害も含めて新システムの共聴施設工事が急がれている所でもあります。

環境が大きく変わり、また更に変化し続けている現在、新しい現実を理解し、受け入れ、利用するものにとっては、大きな機会となる一年であると思っております。

協会事業として昨年はこれらの変化への準備として研修会等も行って参りました。本年はこれらを更に深掘りさせ会員企業が的確に対応出来るよう、発注先への陳情活動も含めて諸事業を進めていきたいと思っております。

中長期的な視点から次世代の電設業界を担う人材の育成に力を入れるため、昨年新たに「人材育成委員会」を正式な委員会として設置いたしました。今年はいよいよ具体的な活動を開始したいと思っております。

本年も皆様のご支援ご協力をお願いし、皆様のご多幸とご健勝を祈念しまして年頭のごあいさつとさせていただきます。

## 企業対策セミナー

# 入札における総合評価方式学び 今後の営業活動に活かす



平成20年度企業対策セミナーを10月22日、会員企業から70人ほど参加いただき、さいたま新都心のホテルブリランテ武蔵野で開催しました。

今年度のテーマは、「入札における総合評価方式の取り組み事例」。講師はNPO法人建設教育研究推進機構の大野春雄理事長が務め①総合評価方式における技術提案②民間技術を活用した入札契約方式の実施状況③総合評価落札方式における課題など9項目を講演しました。



会員企業から70人が参加した今年度セミナー

セミナーを前に佐野会長は「入札制度が大きく変化している今、我々会員はすべての諸問題に準備を怠ってはなりません。公共事業ならびに民間工事の減少に対処し勝ち抜くには、技術力・経営力とともに本質を捉えた経営方針が大事です。本日のセミナーでは総合評価のあらゆる観点からお話をいただきますので、是非とも参考にして今後の営業活動に活かして下さい」とあいさつしました。

9項目を内容としたセミナーで大野講師は、発注者側に予算が無い場合コスト指向に行かざるを得ない現状では「技術提案をするためにVE（バリューエンジニアリング）技術が必要であり、総合評価に対する知識を高めないで標準型以上のVE提案は難しくなる」と指摘していました。

さらに、入札制度の方向性や民間技術力を活用した総合評価方式とVE方式事例リストについても説明。終わりに「最も重要なことは、人材育成を怠ると評価

は上がらない」と伝え、講演を結びました。

最後に今回のセミナーを企画した企業対策委員会（岡島光孝委員長）から「今年度活動として技術系学校に対する業界PR活動について」が報告されました。

それによると今年6月～7月にかけて高等学校では県立浦和工業高校や熊谷工高校など9校。専門校では県立川越高等技術専門校や秩父高等技術専門校など5校。また大学では芝浦工業大学システム工学部や東京電機大学理工学部など5校の計19校を訪れ、業界の現状と電業協会の事業などが説明され、学生の就職状況について情報交換が行われました。

その結果①早期に訪問してほしい②インターシップを受け入れてほしい③就職後も資格取得に前向きに協力してほしいなどの要望が強くありました。

これに対し協会は人材育成が急務と捕らえ、そのためには会員企業各社の協力・理解が必要とし「人材育成委員会」を立ち上げ、協議してきます。

## 人材育成委員会発足！

—明日を担う人材の育成活動に特化した委員会として新設—

### 人材育成委員会委員長 川合 昭

平成20年度、企業対策委員会では従来の事業に加え、中長期的な視点から人材育成に重点を置き活動を行ってきました。昨年6月下旬には当協会の上部団体である（社）日本電設工業協会が作成したリクルート用DVD「明日への挑戦」(\*)を県内にある大学の強電系学部、県立高等技術専門校、工業高校の電気科といった技術系教育機関19か所へ直接持参し、電設業界のPRと学生・生徒の眼を電設業界へ向けていただくようお願いしました。この時、先生方から貴重な意見を多数いただくことができました。

昨年8月には企業対策委員会内に人材育成検討小委員会を設置し人材育成について検討を重ね、平成21年度から本格的に人材育成活動を行う為、新たに人材育成に特化した委員会として人材育成委員会を組織することになりました。

現在、電設業界にとっての主要課題は人材確保・育成となっております。

人材確保について重要な点は、先生方や学生・生徒が私達の仕

事内容に興味を持ち、理解していただく事と考えています。様々な場面を利用し、積極的に広報活動を行います。インターンシップもその一つと考えます。

人材育成については講習会・研修会等の技術教育やキャリアアップ、そしてモチベーションアップが重要であり、電設業界で働く者のすべてが、技術に誇りを持ち、仕事に対する熱意を持ち続けることが大切であると考えます。

そして人材の定着を願います。電気設備工事を「一生の仕事」と選んで欲しいと願っています。

人材育成には会員企業各社、関係各位のご理解とご協力が重要です。よろしくお願いたします。

(\*) リクルート用DVD「明日への挑戦」は（社）日本電設工業協会HP (<http://www.jeca.or.jp>) か当協会HP (<http://www.saidenkyo.jp>) よりご覧になることができます。

## 技術講習会

# 現場の達人へのノウハウ 技術者約50人が集まり受講



さいたま市の建産連研修センターで12月8日、会員企業の技術者約50人が集まり20年度第2回技術講習会を開きました。

講師を務めたのは、建築設備系資格取得支援で名を馳せているSEEDOの関根康明氏。関根氏が「スーパー現場代理人（現場の達人）になるためにはどうしたら良いか」について、休憩をはさみつつ午後4時30分まで1日をかけて解説していただきました。

講習会は①建設業と技術者（建設業の現状、業法、現場技術者）②スーパー代理人への道（現場代理人の業務、取り巻く環境、コミュニケーション技術、建設関係法令の知識、資格取得でスキルアップ）③施工管理の技術1（施行計画、工程管理、資材管理、原価管理、品質管理、安全管理、労務管理）④完成検査の要点⑤写真に学ぶ施工の要点-の5時間分割。現場の達人として身につけるべき資格や技術、工程・原価・安全・労務などの管理テク

ニックやノウハウについて分かりやすい解説となっていました。

講習会に駆け付けた佐野会長は「公共事業が削減される中、今後は企業の技術力と成果品の品質が重要になります。製造業と違い我々には優秀な人材がいるかいないかが大きなカギとなっています。技術が成果品に与える影響が大きく「人がすべて」と言っても過言ではありません。代理人の仕事は奥深いと思います。我々協会としても技術力が重要と認識し、このほど人材育成委員会を立ちあげました。



今後も人材育成に重点を置き、協会活動を進めていく所存です。今日の講習を仕事に役立てていただければ、講習会を開いた甲斐があるというもの。しっかりと勉強しスキルアップにしていきたい」とあいさつし、企業における技術者の重要性を訴えていました。

## 三県連絡会議

# 人づくり、人材の確保について情報交換



活発な意見交換が行われた三県連絡会議

埼玉・神奈川・千葉、各県電業協会の代表者による三県連絡会議が去る12月11日（木）に神奈川県横浜市ホテルキャメロットジャパンにて開催されました。

最初に、今回の開催県である（社）神奈川県電業協会内藤会長より「すべてがマイナス要素に働いている今、少しでも方向性を見出す事ができる会議としたい。」とあいさつがありました。

議事としては（社）千葉県電業協会からの提出議題である「公益法人改革への対応」から活発な意見と情報交換がなされました。この改革については平成20年12月1日から新制度の施行にあ

り、今後5年間の移行期間終了までにどのような形式で申請することが望ましいのか、社団法人として近い将来結論を出さなければならぬ事項です。しかし各県ともすぐに対応せず、今後奨励するような事例を見ながら、これからは情報を提供しあう事を確認しました。

つぎに「人づくり、人材の確保」について、（社）神奈川県電業協会での現況報告を交えて討議しました。神奈川県では高校の技術コンテストなどをサポートする事により、電設業界のPRを行っている事例紹介がありました。また各県でも電設業界関連資料などを配布し、技術系学校とのコンタクトを取りながら進路指導者との意見交換を行っている報告がありました。

これからの問題としては①電気を専攻する生徒が少なくなり、高校等で電気料が無くなってきている。大学においても同様である②電気料で就職する生徒は大手電気メーカーなどが上位を占め、電設業界への希望は非常に少ないなどがあげられました。打開策については、地道な活動とこの業界をいかに魅力ある環境へ変えていくかが重要であろうという考えは各県とも一致した意見でした。

ほかの議事を含め約2時間にわたり有意義な話し合いが行われ、各県とも自県にてこれからの事業へ反映させていくことを申し合わせ、会議を終了しました。

# 地球温暖化防止

## ②二酸化炭素の削減と省エネルギー その2



SEEDO  
関根 康明

### ■待機電力について

待機電力は常時電気を流してスタンバイの状態をつくらせているので、便利ではありません。

一般的な数値ですが、主な電気製品の待機電力の一覧です。

電気製品	機能付き電話機	パソコン	ビデオデッキ	エアコン	テレビ	電子レンジ
待機電力[W]	4.5	2.8	2.5	2.4	0.8	0.5

1家庭で年間に約1万円が待機電力で無駄になっているといわれています。

こまめに電源をコンセントから抜く、またはテーブルタップのコンセント各個にスイッチがついているものなら簡単にON-OFFができます。

パソコンはつけっぱなしにせず、長時間席を離れるときは電源を切るなど習慣化するとよいでしょう。



### ■アイスコーヒーはいつ買う

省エネルギーをすれば省マナーになりますが、省マナーが省エネルギーとは限りません。

デマンドコントローラを設置したり、電力会社との契約種別を変更したりするのは省マナーであって、省エネルギーに積極的に寄与していないと思います。確かに、デマンドコントローラでピークカットし、大型負荷を短い時間帯であってもOffにするわけですから多少は省エネルギーにはなるでしょう。

ところで自動販売機のことをベンダー（ベンディングマシン）と言います。電線管を曲げるのもベンダーですが、販売機はVendorで管曲げはBenderです。

最近はやりのエコベンダー（エコロジーな販売機→環境

に配慮した自動販売機）は、電力を一番使う時間帯（午後1:00～4:00）に圧縮機を運転しないことになっています。電力会社のピークを抑制し、電気を効率的に使うことができるのでエコという名が付いているのでしょう。

真夏の暑いこの時間帯に多くの自動販売機が圧縮機の運転を見合わせています。その代わり、昼休みの時間帯に目いっぱい冷やし、その余冷で数時間を凌ぎます。

つまり、よく冷えたアイスコーヒーの買い時は1時間前後か、我慢の時間帯が終わって最初の運転後がよいということになります。4時少し前はおすすめできません。2℃くらい違うという人がいますが、今度実験してみたいと思っています。

### ■エコアップ認証制度

埼玉県では、1年ほど前からエコアップ認証制度を始めました。

これは、事業所が環境負荷低減計画を作成し、県に提出します。二酸化炭素の削減に優れた取り組みをしている事業所に対し、エコアップ認証事業所として県が認証するものです。

認証を受けるメリットをいくつかご紹介しますと、

①認証事業所であることを県のホームページに掲載、公

表され、公的信用が得られる。

②省エネ対策に関する相談、助言を受けられ、より経費節減に役立つ。

③埼玉りそな銀行による低利な事業資金融資の対象者となる。

なお、詳しいことは埼玉県ホームページの温暖化対策課をご覧ください。

### ■3つのUP

電気工事会社で働く人のUP

①スキルアップ

スキルアップ

②バックアップ

バックアップ

③インカムアップ

インカムアップ

二酸化炭素の削減、省エネルギーに真剣に取り組む事業所に対して、さまざまなプレミアムが与えられる社会にな

りつつあります。

地球温暖化防止という世界規模の共通課題を避けて通ることはできません。

地球温暖化に関して知識を広げ（スキルアップ）、顧客の意識改革、経費節減を支援（バックアップ）する。それが会社、ひいては自分の取入増（インカムアップ）につながる。

これからは電気工事会社も、省エネアドバイザー的役割を担う人材が必要になるでしょう。

◆関根 康明（せきね やすあき）  
1951年、埼玉県川越市生まれ。埼玉県庁勤務の後、SEEDO

（SEKine Engineering Design Office）代表。出前講座、資格取得支援等をおこなっている。

# 今、社会は何を求めるか

三位電気(株) 代表取締役 佐藤 照彦

協会だより  
南部支部

この原稿を書いている今、100年に1度のインパクトといわれる世界恐慌が発生しています。私たちの周辺では多くのデベロッパーが倒産し、多くのゼネコンも倒産しました。これらを受けて電気設備業界も相当の痛手を蒙っている状態です。これからも暫くはこのような状況が続いていくと思われま

す。我々事業経営者にとって大切なことは、どのような社会状況の中にあっても生き残り続け、そして社員やその家庭を守っていくためには何をすべきかについて答えを出すことです。さらに勝ち組となって発展していくためには、今、社会が何を求めているのかということに対して真剣に向き合い、妥協ではなく自尊心で突破していくことであると思

います。生き残り続け勝ち組となるために

は、具体的な強い力を持たなければなりません。その力の源泉はホールディングス的な事業形態や合併や提携などにより、各々の営業力や技術力などの経営資源を補完し合いながら有効活用するための結集された強い力を得ることが、一つの答えであると思います。そして我々もその決断の時が来ている様に思います。

政府に対しては有事であるという危機感を強く持っていただき、大規模な景気対策を速やかに行なうべく切に願っています。社会問題を解決するための社会資本整備や強化について、具体的な面では羽田空港の国際空港化、海上ではハブ港の国際競争力強化に向けた整備があげられます。

身近なところでは治山治水対策や耐震補強整備、さらにはエネルギー効率を上げる様々な施策への投資な

ど、将来必ずやらなくてはならない事業をいかに迅速に行なえるかがカギとなります。そして実体経済に対してどれだけ資金供給できるか期待せざるを得ません。

来年度は新たに数万人の失業者が発生すると言われてい

ます。そして我々埼玉県電業協会会員企業は公共事業の担い手であり、それらの事業を支えながら雇用を守っていくことができます。一人一人が前向きに考え社会の波に流されず、ピンチをチャンスに変えていくことが今、私たちに求められていることであると思

## 好きな事にこだわる事

ムサシ電機工業(株) 代表取締役 吉田 秀幸

# Voice

会員の皆様にはいつもお世話になり、ありがとうございます。第一線で活躍してきた、いわゆる団塊の世代の方が続々と定年を迎えています。否が応でも世代交代の波が押し寄せて苦勞されている企業様も多いと思います。

私どもの会社もそんな時期がまいりまして、昨年4月に先代の社長より会社を受け継ぐこととなり、現在私が当社の新米社長として日々奮闘している次第です。

年代層のジェネレーションギャップも大きな壁となっている昨今ですが、肩肘を張らず一つずつ問題を潰していきたいと思っております。皆様の会社は如何でしょうか？

会員の皆様とあまり一緒にできる機会がなく、面識もあまりないので自分の話をさせていただきます。他人の話ほどつまらないものはありませんが、この場を借りてお話しさせていただきます。

私は世に言う「オタク」です。何の「オタク」かと申しますと、バイクがとても好きでなのです。いわゆる「バイクオタク」です。電気工事業を営んでいますが、ちょっとしたバイク屋のオヤジより知識と技術を持っていると自負しております。

もちろんバイクを走らせるのも大好きですが、リスクを伴う乗り物なので設備の整ったサーキットでしか乗ることは無くなりました。長年レースを趣味としており、そこそこの

成績も残してきました。日常生活では感じる事のない緊張感と集中力、結果が出た時の安堵感と爆発的な歓喜がレースの魅力で、抱えていたストレスなど一瞬にして封じ込めるほどの感覚が得られます。中毒のようなものですかね。

しかし一昨年のレース中に事故に遭い、脊髄を損傷する大けがを負ってしまいました。一年という歳月を掛け漸く社会復帰することが出来ましたが、残念ながら下半身の麻痺が残る車イスでの生活を余儀なくされることとなってしまいました。

周りの皆様には大変なご迷惑を掛けることとなってしまいましたが、バイクと共に生活してきた日々と、このような形で終止符を打たれたことが心残りではありますが、後悔はしていません。逆に色々な経験と喜びを与えてくれたことの方が大きい心の財産となっております。

人生一度きり、こだわり続ける何かを持つことは大切なことではと思います。私のようになってしまっただけで困ってしまっていますが…今は、次の何かを探しているところです。

行動可能な施設での協会の会合などには参加していただくので、この様な大馬鹿な人間ではありますが、ご了承いただけることを願っております。

## 10月

- 7日 第8回理事会  
22日 企業対策セミナー/人材育成検討委員会[企業対策小委員会]  
25日 協会共催・設備設計事務所協会技術研修会

## 11月

- 5日 中間監査  
11日 第9回理事会/県設備課との意見交換会  
25日 協会共催・設備設計事務所協会技術研修会

## 協会のうごき

## 12月

- 4日 第1回人材育成委員会  
8日 第2回技術講習会  
9日 第10回理事会  
11日 三県連絡会議[神奈川県担当]

## 1月

- 14日 第2回人材育成委員会

## 2月

- 3日 企業対策委員会/第3回人材育成委員会  
5日 技術研究委員会  
12日 第11回理事会  
16日 事故防止対策委員会  
18日 広報委員会  
23日 総務委員会

## 3月

- 10日 第12回理事会

## (社) 埼玉県電業協会 支部長 ○ 副支部長 ○

## さいたま支部 (16社)

- 旭電気工業(大宮区)  
浦和電気工事(南区)  
大塚電設(浦和区)  
◎株岡村電機(緑区)  
◎同益電設工事(南区)

(さいたま市)



- ◎埼玉電設(中央区)  
三洋電設(南区)  
新生電気工事(見沼区)  
竹内電設(岩槻区)  
株積田電業社(浦和区)  
中村電設工業(見沼区)  
浜野電設(北区)  
株万代電気工業(桜区)  
瑞穂電設(北区)  
ムサン電機工業(桜区)  
株八洲電業社(北区)

## 東部支部 (10社)

- 株内田電気商会(久喜市)  
株大久保電気(越谷市)  
島村電業(上尾市)  
株新電気(三郷市)  
◎株大広電気(八潮市)  
大洋電設工業(越谷市)  
株高岡電気工業(松伏町)  
◎野口電気工事(越谷市)  
武蔵野電設(蓮田市)  
株弓木電設(白岡町)

## 西部支部 (16社)

- 株新井電機(飯能市)  
飯島電器工事(川越市)  
株市之瀬電設(志木市)  
◎株岡島電気商会(川越市)  
株おぎでん(川越市)  
熊田電気工事(狭山市)  
株三共電気商会(和光市)  
株関根電気商会(川越市)  
相馬電業(和光市)  
株電成社(川越市)  
株中村電気(新座市)  
橋電(所沢市)  
株橋本電工(所沢市)  
馬場電気工業(新座市)  
浜田電機(坂戸市)  
◎フジヤ電気工事(川越市)  
株松本電機(和光市)  
株ヤマト・イズミテクノス(ふじみ野市)

## 南部支部 (11社)

- 内山電設(川口市)  
株奥富電気工事(川口市)  
川島電業(川口市)

- 株佐久間電設(川口市)  
佐野電機(川口市)  
◎三位電機(川口市)  
高山電設工業(川口市)  
株田部井電気(鳩ヶ谷市)  
◎釣谷電機(川口市)  
那須電機工業(川口市)  
領家電設(川口市)

## 北部支部 (16社)

- イーテクノス(熊谷市)  
株エコー(深谷市)  
関根電気工事(本庄市)  
小沢電気工事(行田市)  
共和電機(秩父市)  
◎熊谷電機(熊谷市)  
株栗原電機(深谷市)  
霜田電気(皆野町)  
中外電気工業(深谷市)  
株東電工業社(熊谷市)  
株長井電機(熊谷市)  
株沼尻電気工事(深谷市)  
株早川電工(行田市)  
◎松山電設(東松山市)  
ムサン電機工業(行田市)  
◎株羅進電気(深谷市)

雇用・能力開発機構では、雇用管理に関する事業を行っており、公的資格取得や能力開発のための各種事業及び助成金を行っていますので、お気軽に協会窓口まで、ご相談下さい。

## 独立行政法人 雇用・能力開発機構埼玉センター

## &lt;雇用開発業務&gt;

良好な雇用機会の創出と雇用環境の改善を図るため、新分野進出の支援をはじめ雇用管理全般の相談・情報提供等を行うほか関連の助成金支給や勤労者の財産形成促進等を業務としています。

## &lt;能力開発業務&gt;

離職者のための機動的な委託訓練コースや在職者に対する能力開発セミナーなど職業訓練を実施するとともにキャリア形成に関する相談・情報提供、助成金支給等を業務としています。

◆電話 048-882-4164 (建設労働・財形担当)

◆FAX 048-882-4166

◆所在地 〒336-0931 さいたま市緑区原山2-18-8